

■デジタル色彩士検定について(知識としての色彩ではなくスキルとしての色彩)

色彩は本来あらゆるジャンルで、専門の色彩デザイナーが必要です。配色作業に必要なのはデザイン効果で、配色と無関係な知識は役立ちません。これまでの色彩検定では不必要な知識を試験と称して出題されて来ましたが、それではプロとしての能力を検定するものにはなりません。プロとして使える色彩スキルのレベルを検定し資格を与えるのがデザイナーの武器となります。スキルとしての色彩を身につけ、デザインやアート、生活の中での色の応用、特に商品開発における色の選定、ブランディングのイメージ選定、空間の色彩計画を科学的な方法で行える人材の育成とレベルの認定を一般社団法人日本カラーイメージ協会が行なっています。デジタル色彩の教育を担う指導者の養成と教育カリキュラムの作成に対して本研究所が担当してきました。企業や色彩を扱う人材の「デジタル色彩研修」や高校における「デジタル色彩講座」によって普及を図っています。